

2017年9月11日

診療科長 医局長
病棟医長 外来医長
中央診療施設副部長
看護部長 看護師長
事務部長 殿

検査部 免疫血清検査室

検査部回報 No.26

抗核抗体検査法変更のお知らせ

抗核抗体検査は、現在用手法で行っておりますが、全自動蛍光抗体法分析装置を導入致しましたので検査法を変更いたします。

それに伴いまして、基準範囲が変更になりますのでお知らせいたします。

記

変 更 日：2017年10月2日（月）受付分より

検 査 項 目：抗核抗体

	機器	試薬	基準範囲
新測定法	全自動蛍光抗体法分析装置 HELIOS®	フルオロ HEP-2 ANA テスト	<80
旧測定法	用手法	フルオロ HEPANA テスト	<20

①HELIOS と用手法の相関 (n=194)

用手法と比べて、HELIOS では 1 管もしくは 2 管高く陽性と判定されることがあります。

従来法 (HEPANA) と HELIOS の相関

HELIOS	2560							4	5	9
	1280						4	4	6	
	640					7	10	5		
	320				3	13	10			
	160		1	1	11	15				
	80	9	7	2	10					
	<80	41	10	7						
		<20	20	40	80	160	320	640	1280	2560
	HEPANA (用手法)									

②スクリーニングモードを採用します。

- ◆ スクリーニングモードとは、検体を 80 倍のみで希釈してスライドを作成し、その蛍光強度から力価を判定します。
- ◆ タイトレーションモードとは、検体を段階希釈し、それぞれスライドを作成し、希釈倍率から力価を判定します。

初検の時はまずスクリーニングモードで検査を行い、160 倍まではスクリーニングモードでそのまま結果として報告し、320 倍以上の場合はタイトレーションモードで再測定して、その結果を報告します。

前回値が 320 倍以上の力価の検体については、従来通りタイトレーションモードで検査を実施します。

スクリーニングモードとタイトレーションモードの相関

スクリーニングモード	5120								4	
	2560						1	4	14	
	1280					2	5	9		
	640				1	10	15	1		
	320			2	7	14	3			
	160			11	20	2				
	80	9	16	3						
	<80	41								
	<80	80	160	320	640	1280	2560			
	タイトレーションモード									

問い合わせは、検査部免疫血清検査室(内線 7414)までお願いします。